中山間地における一人暮らし高齢者の災害に対する備えとソーシャルサポート

（三宅弘枝ほか、日本災害看護学会誌 15: 49-57, 2013）
2014 年 9 月 26 日、災害医学抄読会 http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/

目的と方法

一人暮らし高齢者の災害に対する備えとソーシャルサポートとの関連を明らかにするために、65 歳以上の一人暮らし高齢者 142 名に対して、独自に作成した 25 項目の質問項目の無記名自記式による任意のアンケート調査を行った。その後性別、災害体験、IADL、ソーシャルサポートと災害に対する備えとの関連について重回帰分析を行った。

結果

アンケートに回答に得られた者のうち、欠損のない 118 名を分析した結果、災害に対する備えに影響する要因として、以下の項目が有意であった。

・近隣よりも家族・親戚のソーシャルサポートがあること
・災害体験者
・男性であること
・IADL が良いこと

考察

高齢者や患者は災害時に支援の優先度が高く、対策の１つとして災害準備期においての対人関係の構築や予防活動等が挙げられる。近年、災害時においては「共助」の概念が重要視されており、災害に強いコミュニティづくりの必要性が求められている。この「共助」の概念はソーシャルサポートの考えと類似しており、ソーシャルサポートと災害弱者のつながりを把握することが災害準備期において重要であると考えられる。

結果の一つとして「近隣よりも家族・親戚のソーシャルサポートがあること」の災害に対する備えへの影響が示されたが、災害時には期待できる救助者が近隣に居ることが重要であるため、共助関係を予め築いておくことの必要性が示唆された。また、共助関係の構築が高齢者どうしのため困難である場合も多いため、第三者の迅速な介入が重要であり、そのための整備の重要性も示唆されたと思われる。

また、「災害体験者」、「男性であること」にも上記同様の結果が示された。この対策として、婦人会など特に女性参加率の高い地域活動において啓発活動をより活発化していく、などの対策が考えられる。

最後に、本研究の問題点として、今回は質問項目を独自に作成したが、より正確な実態を論ずるために、より適切な測定用具を開発していく必要があると考えられた。